

修士論文（要旨）

2016年1月

異文化間ミスコミュニケーションの緩和を目指して
— 日・英語間の対応語に見出せる意味の差異とコミュニケーションへの影響の分析 —

指導 畑山浩昭 教授

言語教育研究科

英語教育専攻

214J3051

小笠原惇也

Master's Thesis (Abstract)
January 2016

Toward the Mitigation of Intercultural Miscommunication: An Analysis of the Differences
in Meanings of Corresponding Words in Japanese and English and their Influences on
Communication

Junya Ogasawara

214J3051

Master's Program in English Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Hiroaki Hatayama

目次

| | |
|--|------------|
| 序章 | 1 |
| 0.1. 問題の所在と研究の目的 | 1 |
| 0.2. 研究の対象と方法 | 2 |
| 第1章 コミュニケーション及びミスコミュニケーションに関する主要な概念 | 3 |
| 1.1. コミュニケーションの定義 | 3 |
| 1.2. コミュニケーションの目的 | 4 |
| 1.3. コミュニケーション・モデル | 5 |
| 1.4. コミュニケーションの種類 | 9 |
| 1.5. ミスコミュニケーションの定義と要因 | 16 |
| 第2章 日・英語間の対応語に見出だせる意味の差異 | 20 |
| 2.1. 小論における「対応語」と「意味」の定義 | 21 |
| 2.2. 意味の差異に関する先行研究の概観 | 23 |
| 2.3. 意味の差異の調査・分析 | 24 |
| 第3章 意味の差異がコミュニケーションに与える影響 | 26 |
| 3.1. 意味の差異の問題モデル | 26 |
| 3.2. 異文化間ミスコミュニケーションの発展モデル | 27 |
| 3.3. 意味の差異がコミュニケーションに与える影響: 過去に起きた摩擦の調査・検証 | 29 |
| 第4章 異文化間ミスコミュニケーションの緩和へ向けて | 34 |
| 4.1. これまでの異文化間ミスコミュニケーションへの対策 | 34 |
| 4.2. 異文化間ミスコミュニケーションを緩和する手段としての低コンテクスト化 | 34 |
| 終章 | 39 |
| 5.1. 結論 | 39 |
| 5.2. 今後の課題 | 40 |
| 参考文献 | i |
| 謝辞 | vii |

要 旨

現在の世界では、グローバル化によって、人、モノ、カネ、情報が国境を越えて日々行き来している。これにより、様々なレベルで国や文化の枠を超えた異文化間のコミュニケーションが一般的になっている。その中でも、英語は特に普遍性が高く、異文化コミュニケーションの共通言語の1つとして認知されている。日本においても、英語教育の低年齢化や大学のグローバル化の推進など、社会のグローバル化に対応するための試みがすでに始まっている。

グローバル化は世界の距離を縮める一方で、異文化間での摩擦や衝突による問題も引き起こし、時には人命に危害が及ぶこともある。異文化コミュニケーションは、誤解が当たり前で理解は偶然の産物であるという言葉もあるほど、ミスコミュニケーションが当たり前のように生じるものである。しかし、例えばグローバルな課題は、そうしたミスコミュニケーションに起因している場合もあり、少しでもそのミスコミュニケーションを緩和しようと試みることが、これからの社会のコミュニケーションを考えるうえで重要である。また、異文化間ミスコミュニケーションの要因には様々なものが挙げられるが、その1つは小論の扱う異言語間の対応語に見られる意味の差異である。この意味の差異を扱った研究はすでに多く存在するが、異文化間ミスコミュニケーションの要因としてこれを扱ったものは数が少なく、扱われたとしても、その記述は意味の差異の存在について注意を促すに留まっており、実際にミスコミュニケーションや摩擦を誘発させるのか否か、実証が必要である。

上記の問題意識に基づき、小論では主題を「異文化間ミスコミュニケーションの緩和を目指して」とし、日・英語間の対応語に見出せる意味の差異とコミュニケーションへの影響について考察した。さらに小論では、異文化間ミスコミュニケーションの緩和策、延いてはグローバル化社会において頻繁に生じる摩擦を和らげる方策の1つとして、「低コンテクスト化」を提案した。

具体的な流れ・内容としては、第1章では、小論の基盤ともいえるコミュニケーションとミスコミュニケーションそのものについて先行研究のレビューを行い、複数の意見や理論をまとめている。第2章から第3章にかけては、日・英語間の対応語における意味の差異に着目、その差異を明らかにした後、実際にコミュニケーションに影響を与えるかについて、過去に起きた摩擦の事例を通じて検証を重ねた。結果的に、語や状況によって程度の差はあるものの、意味の差異によって異文化間ミスコミュニケーション・摩擦が生じていることが示された。

異文化間ミスコミュニケーションを緩和する手段としては、文化的背景の異なる人々との交流や活動を通じた異文化理解が一般的なものとして挙げられる。しかし、文化について学習し、そこで得た原則としての知識を個々の事例としての実際のコミュニケーションに活用するような演繹的な方法では、すべてのミスコミュニケーションを緩和することはできない。また、異文化コミュニケーションにおいては、コミュニケーションの参加者間で解釈・理解の鍵となる共通の基盤が比較的共有されていないため、解釈・理解を受け手やコンテクスト

に依存するような高コンテキストなコミュニケーションを行えば、ミスコミュニケーションの程度は大きくなると考えられる。小論を締め括る第 4 章では、このような考えに基づき、メッセージの伝達・解釈段階におけるコンテキストへの依存度を下げ、お互いの伝えたい内容をより明示的・具体的にしてい、コミュニケーションの「低コンテキスト化」を、異文化間ミスコミュニケーションの緩和策の 1 つとして提案した。

参考文献

- Adjemian, C. (1983) "The Transferability of Lexical Properties," *Language and Transfer in Language Learning*, eds. by Gass, S. & Selinker, L., 250-268, Newbury House, Massachusetts.
- Triandis, H. C. (2009) "Culture and Conflict," *Intercultural Communication: A Reader*, 12th ed. eds. by Samovar, L. A., Porter, R. E. & McDaniel, E. R., 18-28, Wadsworth Cengage Learning, Massachusetts.
- 石井敏, 久米昭元編集代表, 浅井亜紀子, 伊藤明美, 久保田真弓, 清ルミ, 古家聡編集委員 (2013) 『異文化コミュニケーション事典』春風社, 神奈川.
- 奥津文夫 (1998) 「日英語対応語義範囲のズレと文化的背景 家族内の人間関係を示す語を中心に」『和洋女子大学紀要 文系編』38, 11-23.
- 奥津文夫 (2008) 「日英語比較と背景文化 —“wear”の美本誤訳と「腰」の意味範囲をめぐって」『日英の言語・文化・教育 —多様な視座を求めて』日英言語文化研究会編, 三修社, 東京.
- カーティス, P., ケリー, E. (1990) 『ケリーさんのすれちがい 100 日米ことば摩擦』三省堂, 東京.
- 國廣哲彌編 (1982) 『日英語比較講座 第3巻 意味と語彙』再版, 大修館, 東京.
- 久米昭元, 長谷川典子 (2007) 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション —誤解・失敗・すれ違い— *Intercultural Communication through Case Studies*』有斐閣, 東京.
- 小島義郎 (1988) 『日本語の意味 英語の意味』南雲堂, 東京.
- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』岩波書店, 東京.
- 塩澤正, 吉川寛, 石川有香編, 大学英語教育学会監 (2010) 『英語教育学体系第3巻 英語教育と文化 —異文化間コミュニケーション能力の養成』大修館, 東京.
- 鳥飼玖美子 (2004) 『歴史をかえた誤訳』新潮社, 東京.
- 鍋倉健悦 (1997) 『異文化間コミュニケーション入門』丸善出版, 東京.
- 西山千 (1991) 『新・誤解と理解』サイマル出版会, 東京.
- 日本時事英語学会編 (1988) 『日米情報摩擦 英語マスメディアに見る経済紛争』大修館, 東京.
- 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析 —内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版, 京都.
- フクシマ, G. S. 著, 渡辺敏訳 (1992) 『日米経済摩擦の政治学』朝日新聞社, 東京.
- ホール, E. T. 著, 岩田慶治, 谷泰訳 (1993) 『新装版 文化を超えて』TBSブリタニカ, 東京.
- 森住衛 (2004) 『単語の文化的意味 friendは「友達」か』三省堂, 東京.
- 山田純, 吉田光演責任編集, 広島大学大学院総合科学研究所編 (2015) 『ミスコミュニケーション 言語学徒 英語学徒が語る』丸善出版, 東京.

※数が多いため一部を掲載。この他、辞典類、ウェブサイトもあり。